

戦略2：地域連携と超省力化による「収益性の高い上都賀型水田農業の確立」

(1) 対応方向

上都賀地域の土地利用型農業は、小区画・不整形地や農地分散による作業効率の悪さ、農地集積に伴う畦畔や水管理作業の担い手不足、施設・機械等への投資拡大等が、担い手の経営発展を阻害しています。

そこで、将来の地域水田農業のあり方検討を促進させ、担い手のネットワーク化による農地の集約化、次世代に向けた集落営農組織の再編を進めるとともに、作業効率に配慮した基盤整備、効率的な畦畔管理体制の研究・拡大、省力化・スマート農業技術の普及拡大、高収益作物の導入等による経営の複合化等を進め、土地利用型農業経営の所得向上を図ります。

(2) 主な指標

項目	現状(R1)	目標(R7)	備考
15ha以上担い手の総面積シェア※	19.8%	30%	農業振興事務所調べ
集落営農組織等の連携・再編数	0	3	農業振興事務所調べ
次世代型生産基盤技術計画地区数	0地区	3地区	農業振興事務所調べ
スマート農業技術導入経営体数	22経営体	50経営体	農業振興事務所調べ

※1 経営面積15ha以上の担い手が水田総面積に占める割合

(3) 取組方策

1) 地域水田農業のあり方の検討促進

人・農地プランの重点支援地域(多面的機能支払交付金の活用地区や基盤整備の検討地区等)を中心に、地域と担い手が協力した将来の水田農業のあり方検討を促進させ、基盤整備、農地の集積・集約化、効率的な畦畔管理、高収益作物の導入等の取組を明確化させます。

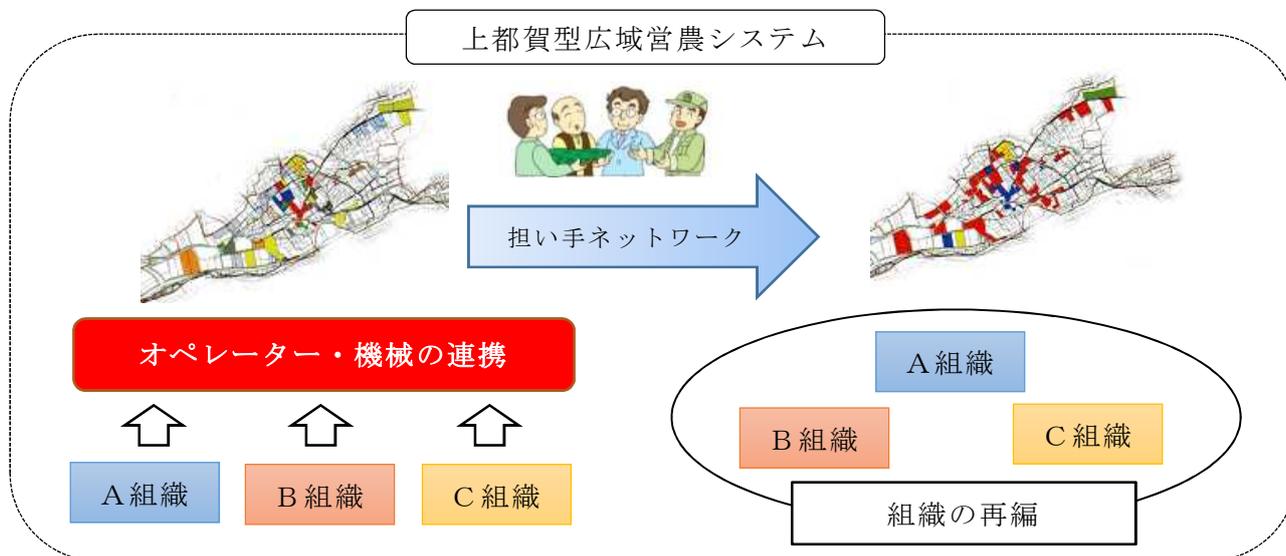
2) 地域の実情に応じた広域営農システムの推進

ア 担い手のネットワーク化による農地の集約化の推進

人・農地プランを基本に集落単位の担い手による農地利用や受託条件等の合意形成を促進するとともに、集落を越えた広域による担い手のネットワーク化を進め、効率的な作業ができる農地の集約化を進めます。

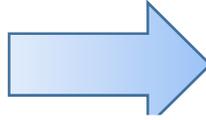
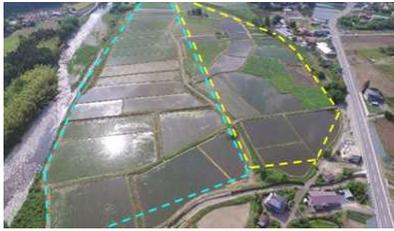
イ 次世代に向けた集落営農組織等の連携・再編

集落営農組織間の話合いによる各組織のオペレーターの連携や組織の再編及び収益性向上による雇用の確保等により、将来にわたって継続的な地域水田農業が運営できる組織づくりを進めます。



ウ 担い手の作業効率に配慮した計画的な基盤整備

担い手、地域に次世代型生産基盤技術等を推進し、経営の大規模化や省力化・低コスト化、中山間地等に対応した基盤整備を計画的に推進します。また、土地改良区等による施設の維持・長寿命化・補強・機能強化等を支援し、農村地域の防災力の向上を図ります。



大区画化や用排水路の地中化等



エ 効率的な畦畔管理体制の研究・推進

担い手の経営の大規模化が進む中で労働時間の約2割を占める畦畔・水管理の管理作業の外部化及び機械化や自動化など、新たな管理方式の研究と推進を図ります。



オ スマート農業技術の効果的な活用

省力化・低コスト化につながるスマート農業技術について、導入効果や活用方法の検討、情報発信を行うとともに、土地利用型経営体の経営状況に応じた導入推進に取り組みます。また、地域の担い手が、スマート農業等の先進技術の情報の共有等を図る場を設置します。



カ 高収益作物の導入等による経営の複合化

中規模水田農業経営の安定を図るため、施設野菜や土地利用型園芸等、高収益作物の導入を推進し、経営の複合化による所得向上を図ります。



(4) 推進体制と役割分担

